

各 位

上場会社名 ラサ工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 庄司 宇秀
 (コード番号 4022)
 問合せ先責任者 取締役財務部長 永戸 正規
 (TEL 03-3278-3892)

平成 24 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 23 年 5 月 20 日に公表しました平成 24 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日）の業績予想値と、本日公表の同実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異

(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	10,800	700	400	400	5.04
実 績 値 (B)	10,832	881	658	524	6.61
増 減 額 (B-A)	32	181	258	124	
増 減 率 (%)	0.3	25.9	64.5	31.0	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 3 月期第 2 四半期)	12,166	813	545	142	1.80

2. 差異の理由

第 2 四半期累計期間業績

当第 2 四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの生産活動の復旧が進んだことにより、生産や輸出に一部持ち直しの動きが見られました。その一方で、欧州における信用不安の顕在化や、電力供給不安、急激な円高の進行など、不安定な状況が続きました。

このような環境のなか、化成品事業は、燐酸などの燐系製品、水処理用などの凝集剤が共に概ね堅調に推移したことに加え、コンデンサー向け原料が好調であったことから、損益は予想より増加いたしました。電子材料事業は、化合物半導体向け高純度無機素材が、携帯情報端末等の市場拡大などにより、販売が増えた製品があったものの、一部取引先が電力供給不安の影響により生産調整を行なったため、損益は予想に対し若干の増益となりました。機械事業につきましては、下水道関連の掘進機は、海外向け販売が堅調に推移しましたが、破碎関連機械は、単体販売・プラント工事ともに低水準の販売に留まった結果、収益は予想を下回りました。

このため、前回業績予想に対しまして上記のような差異が発生いたしました。

通期業績

今後の見通しといたしましては、欧州における金融不安、これまで好調に推移してきた新興国の成長鈍化懸念に加え、タイの洪水による世界的なサプライチェーンの寸断による景気下振れリスクが存在しております。また、国内経済は東日本大震災によって寸断されたサプライチェーンの回復に伴う需要増加や震災に関する復興需要が見込まれますが、電力供給の制約、円高の長期化、またこれらが工業生産の海外移転の動きを惹起するなど、景気の先行きには、強い不安定要因が存在します。

このような見通しの中、化成品事業においては、震災により寸断されたサプライチェーンの回復に伴い需要は堅調に推移すると見込んでいるものの、黄燐等原材料価格の上昇が予測されること及び半導体市況に厳しさが増してきたことから、高純度燐酸など電子部品向け製品を中心に先行き不透明感があります。電子材料事業においては、化合物半導体向けの高純度無機素材が携帯情報端末等の市場拡大により、堅調な販売を見込んでおりますが、薄型テレビ市況の悪化により、発光素子関連の化合物半導体について、一部生産調整を強めている取引先もあり、先行きに不透明感が強まっております。機械事業においては、下水道関連の掘進機は、海外向けの販売が伸びるものと想定しておりますが、長引く円高により、業績の下振れリスクが内在しております。一方破碎関連機械は、年明け以降に震災復興関連の需要が予想されることもあり、販売が増加するものと見込んでおります。

なお、業績見通しにつきましては、第2四半期累計期間の業績が計画を上回って推移しているものの、先行きに多くの不透明要素があるため、現時点では見直しを行いません。

以 上